

カリキュラム（詳細版）

20200708作成

No	講義名(単元)	講座の内容
1	開講式・序論	開講式・スタッフ/講師紹介 動機付け
2	改善推進リーダーの心得	改善活動をリードする担当者に必要とされる「現状を見抜く力」「問題を定義し改善案を提言する力」「組織集団の能力を引き出す力」など、周囲を巻き込んでモチベーションを高め継続して成果を出し続けるスキルを理解する。 ～リーダーシップ/マネジメント/コミュニケーション～
3	ものづくりの基礎概念	「製品」や「生産プロセス」に関する基礎概念を理解する。 ものづくり＝「良い設計の良い流れ」との考えに基づき、現場における「もの」と「設計情報」の流れについて理解する。
	ものづくりの競争力	企業の経営力強化に必要な競争力の要素を理解する。 ～「表の競争力」と「裏の競争力」～
4	ものづくりとIoT	工場におけるIoTの活用・スマート工場等について、ものづくりとIoTの関わりについてその概要を理解する。 何故、今IoTなのか？、生産物流領域でのIoT活用のポイントと可能性を学び理解する。更にIT・AI領域を学ぶことで、現場改善活動の中での位置づけについて理解する。IoT在りきでIoTを導入するのではなく、課題在りきでIoTを導入すべきであることを理解する。
	現場の5S	現場改善の基本である5Sについて、その意義と活動の進め方を理解する。 ～赤札作戦・3定・看板作戦～
5	コストと生産性	改善活動と会社の利益の関係性について学ぶ。身近な事例を想定した損益分岐点の計算等を通じて原価構成や改善効果について理解する。
6	プロセス分析	生産に係るプロセスの特徴とそれを図化する方法について理解する。 ・空間で見るプロセス記述 ・時間軸で見るプロセス記述 ・パフォーマンスの測定 ものづくり現場の現状把握に必要なパフォーマンスの測り方を理解する。 ・ものと情報の流れ図の活用 実際に改善を行う際に最初に作成する「ものと情報の流れ図」を理解する。流れ図によって不具合の兆候を発見し、ボトルネックを解消する手順を習得する。
7	IE（人の作業の改善）	人の動作について、改善ポイントを見つける目付きや考え方、改善を進める手順を学ぶ
8	品質管理とQC手法	問題を解決するための基本ツールであるQC7つ道具、データのばらつきから適切な判断を下すための統計的なものの見方・考え方と統計解析手法について理解する。
9	設備生産性の改善	人と並んで生産プロセスの生産性を高める重要な要素である「設備」について、改善ポイントを見つける目付きや考え方、改善を進める手順を理解する。
10	生産管理・物流の改善	生産の仕組みや物の流れを改善するとどのような効果があるか、その目的と進め方を理解する。
11	現場改善の進め方	改善活動を進める上で、メンバーと協力しどのような手順で現場改善を進めて行けば良いか事例を交えて理解する。
12	擬似実習体験の進め方	ビデオ動画を見ながら、課題の見える化から改善案の提案までを擬似的に学ぶ。オンライン実習独自の進め方を理解する。
13	擬似実習体験	過去の現場改善実習情報を基に、改善実習うい疑似体験する。 現場改善の進め方を実践を通してその手順を理解する。（チーム活動）
14	改善報告会	自社での改善活動結果を報告。実践して出した結果をお互いに報告することで、つながりによるモチベーションの向上に加え継続的な改善へ向けた意欲を維持する。